

## 第1回Jヴィレッジ復興プロジェクト委員会議事録

- 1 日時：平成26年5月21日（水）午前11時00分から午前11時45分
- 2 場所：Jヴィレッジ 「アルパインローズ」〔双葉郡柵葉町〕
- 3 出席者：別紙出席者一覧のとおり
- 4 議事
  - (1) 開会
  - (2) あいさつ  
福島県企画調整部長 近藤貴幸
  - (3) 委員紹介
  - (4) 委員長等選出  
「Jヴィレッジ復興プロジェクト委員会設置要綱」第3条に基づき、委員長を福島県企画調整部長 近藤貴幸委員、副委員長を株式会社日本フットボールヴィレッジ代表取締役副社長 上田栄治委員に決定。
  - (5) Jヴィレッジ復興計画（再整備計画）の基本的方向性について  
事務局から資料に基づいて説明。

### 【東京電力】

- ・ Jヴィレッジは震災直後から事故収束基地として使用させてもらっており、現在も復興本社や地域復興に関する拠点となっている。
- ・ 2018年度中にJヴィレッジにある施設を撤収する計画ではあるが、具体的な進め方等は、県や関係自治体、JFAと協議していきたい。

### 【Jヴィレッジ】

- ・ スケジュール案には東京オリンピックの1年間に営業再開を目指すところがあるが、可能であれば、さらにその1年前の2018年に部分再開したい。
- ・ 2019年4月に全てが動き出すのではなく、使用可能な施設から先行して供用を開始していけば、オリンピック合宿を行うときには、クオリティの高いサービスを提供できると思う。
- ・ 最盛期には、180人近くの従業員が働いていたが、現在13名しかいないため、サービスをする側のトレーニングする意味もある。
- ・ オープンの方法や時期等については、この場にいる皆さんと協議し進めていきたい。

### 【福島県電源地域振興財団】

- ・ 施設の所有者としては、サッカー・ナショナルトレーニングセンターとして日本有数の施設であったこと、また、現在活躍しているJFAアカデミー福島の卒業生を育

ててきたことに誇りを持ち、今後も、基本的方向性の中の「Ⅱ NTC機能の強化」及び「Ⅲ トップアスリートの育成拠点」としてこの施設を活用していきたいと考えている。

- 同じような機能を持つ施設が徐々に増えてきており、今後を見据えた施設として考えていかなければならないため、委員会の方々と協力して、適宜進めていきたい。

#### 【JFA】

- Jヴィレッジがオープンしてから17年が経過しているが、これだけのピッチや宿泊施設所有している施設としては日本でトップレベルであることは間違いない。
- 新たな付加価値の創造という点からいうと、サッカーだけでなく、色々なスポーツも視野に入れて良いと思う。

#### 【広野町】

- サッカーのまち広野をうたっており、広野町にとっても大切な施設。
- 中高一貫校との連携が重要な課題であると認識している。
- また、地場製品の活用など、様々な面で連携を考えていきたい。

#### 【檜葉町】

- 檜葉町の復興計画においては、Jヴィレッジを復興のシンボルとしており、できるだけ早く営業再開してもらいたい。
- 双葉郡の復興にJヴィレッジを位置付ける必要がある。
- どのような付加価値を付けていくのかが重要であると思うので、委員の方々と検討していきたい。

#### 【議長】

- この後の議題になるが、この委員会の下に作業チームとしてプロジェクトチームを構成し、基本的方向性の5つについて月1回程度揉むことになっている。
- その議論の軸になるような意見があれば提案をお願いしたい。

#### 【Jヴィレッジ】

- Jヴィレッジは1997年にオープンして以降、最新のトレーニング施設として日本のサッカー強化の役割を担った。また、それに刺激を受けて、別の場所にサッカー・ナショナルトレーニングセンターが整備された。
- 常に日本サッカー界をリードしていくJヴィレッジとしては、次の15年、20年、30年に向けても、日本のサッカーを引っ張っていくものを提供する必要がある。
- Jヴィレッジが提供することで、また、別の地域にJヴィレッジを見習った施設が

整備され、真似されて、日本全体のサッカー文化が発展していくだろう。

- それを目指すことが、地域の発信力を高めることに繋がっていくと思う。
- ここが日本のサッカーの発信基地だというものを、具体的な形として示したいと考えており、それをプロジェクトチームの中で検討したい。
- これまでJヴィレッジには無く、なおかつ、日本のサッカー強化に直結できる唯一の施設を整備することで、A代表のキャンプが行われ、また、子供たちがここでプレーしたいと思うだろう。
- これから20年後の方向性を示すような最先端の施設を度提供することにより、サッカー施設として、それから、復興の象徴としての、福島の一つの大きな旗印になると思う。

#### 【東京電力】

- 復興させていくというのは同じ思い。
- 基本的方向性を議論する中で、様々な課題が増えていくと思う。皆さんと同じ方向性を持って解決に向けて協力していきたい。

#### 【議長】

- スケジュールに関しては、議論を進めていくと、様々な課題があると思うので、早めに議論を開始する必要があると思い、今回、この委員会を設置した。
- 真剣に議論していただき、課題を一つ一つクリアしていきたい。

#### 【Jヴィレッジ】

- 現在、日本のスポーツをリードしている味の素ナショナルトレーニングセンターという施設があり、そこは日本のスポーツの強化を支えている中心的な施設である。その施設は、トップアスリートだけを受け入れ、トップアスリートの強化に絞って施設を運営し、メディカル、フィジカルの研究施設も兼ねながら、日本のオリンピック種目の強化の大きな役割を果たしているが、Jヴィレッジはそのような施設を目指すものではないと考えている。
- Jヴィレッジは、ナショナルトレーニングセンターとして日本代表の強化の拠点になると同時に、子供やシニアの方々など幅広く足を運んでもらい、この施設でサッカーの楽しさや面白さを矜持いただくというレジャーの要素も持った施設にするべきだと思っている。
- 味の素トレセンはアスリートしか中に入れないが、Jヴィレッジはトップアスリートから愛好者まで、様々なレベルの人たちが同様に使える施設として運営していかなければならないと考えている。
- トップアスリートだけに焦点を絞ってやる方が楽だと思うが、収益を上げるために

はニーズを広げていかなければならない。

- ぜひとも方向性、Jヴィレッジとはこうあるべきだという絵の描き方をさせていただければありがたいなと思います。

【榎葉町】

- 今の意見は重要だと思う。3番にも関係してくるが、今後の双葉郡の復興を考えた場合、最終的に子供が戻るかどうかと判断が重要になってくると思う。子供と一緒に親が戻ることで、復興につながっていくのではないかと思う。

【議長】

- プロジェクトチームにおける議論の前提となる基本的方向性について提案しましたが、これで整理したいと思うが、よろしいでしょうか。

(各委員会らは特に意見無し)

- 議論の中で、基本的方向性を修正することもあるかと思うが、その時は再度確認させていただきたい。
- 以上で議題(1)について終了する。

(6) 今後の進め方について

事務局からの今後の進め方として、主な工程と次回以降の会議の開催予定日程等について説明が行われた。

次回開催は8月予定とした。

(7) 閉会